

Two dads and three girls

3人の娘をもつゲイの父親

Interviewee

Mr. Nick Yu He

Q. ご自身について教えてください。

自分は中国出身の100パーセント中国人で、MBA取得のために2007年に渡米した。渡米は自分のキャリアを向上させ、成功するためという建前だったが、よく考えてみると、本当の自分を見つけたかったから。2009年にシアトルに引越して、2010年に現在の夫と出会った。そして、2013年に結婚した。一人目の娘が2015年に生まれ、2017年には双子の娘が生まれた。

最近の子育てに忙しい毎日を過ごしている。

Q. ご自身のセクシュアリティの自覚と、親になりたいという気持ちはいつ頃生まれましたか？ パートナーとの話し合いはスムーズでしたか？

最初に子どもを持つことについて考えたのは、結婚した時。そんな機会を持つことはないだろうと思っていた。自分はゲイだから、エイズとか似たような病気で死ぬかもしれないと考えていた。そして、両親に自分のセクシュアリティについてどのように話せばいいのかわからなかった。カミングアウトした直後に現在の夫に出会った。両親はどう思うだろうかと、とても心配した。その経験から、自分は自分の家族をサポートするためにできる限りのことをやろうと思った。

夫と私が家族を持つことを最初に考え始めたのは2014年だったが、代理出産は高額すぎると思っていたから、はじめは多くの養子縁組のエージェントを訪ねた。しかし、自分たちが最終的に選んだのは代理出産だった。

Q. 代理出産を選択するまでの意思決定、代理母が出産するまでのプロセスはどのように進みましたか。

当初、夫と私は、代理出産は自分たちには高額すぎるのではないかと思っていた。代理母を含め、抱え込むものがたくさんあるためだ。それでも、養子縁組を選ぶことにはなぜか躊躇した。養子縁組の書類は机の上でほこりをかぶっていた。ついに代理出産を開始する時、順序に従って進めようと思った。夫と私は、両親と子どもが似ていると他人から認識されるという考えが気に入っていた。

Findsurrogatemother.comというサイトを訪れて、自分たちは代理母を探しているというプロフィールを載せた。可能性のある代理母からたくさんメッセージをもらったが、会話がそれ以上進むことはなかった。その後、自身の小さな代理出産エージェントを運営しているメリッサという女性からコンタクトがあった。最初はエージェントを通すことをためらった。費用がより多くかかる上に、さらにプロセスが複雑になるのではないかと思ったから。

夫と私は、代理出産のプロセスの間、たくさんの困難に直面した。自分は女性の生理について何もわかっていなかったから、学ぶことがたくさんあった。また、自費で賄わなければならない検査も



結構あった。最初に選んだ卵子ドナーは性感染症を持っていた。これは、自費の検査でしかわからないことだった。その後、私たちは卵子提供を受けるために別のエージェントを利用したが、ドナーの採卵の3日前に、彼女が避妊をしないで恋人とセックスしたため提供を受けることはできなくなった。ドナーが妊娠した可能性が生まれたからだ。これには、ひどくストレスを感じた。

代理母を見つけるのも大変だった。最初の代理母候補だった女性とはとても良い関係を築いたが、私たちが決めた身体的要件を満たしていなかった。そのため、ほかの人を選ばなければならなかった。その後選んだ代理母は、双子を妊娠したが、早い段階でそのうちの一人が亡くなった。これはよくあることだったが、傍観者である自分にとっては衝撃の出来事だった。

2回目の代理出産は、これもまた波乱続きだった。新たな卵子ドナーに依頼し、夫と自分の精子を使ってそれぞれ受精卵を作ったが、1回目の代理出産の時と違って、夫の受精卵のほうが私のものより状態が良かった。この時に作った夫の受精卵一つと、2年前の1回目の代理出産の時に作った自分の受精卵一つを移植することにした。

もう一つ思い出すのは、双子を身ごもっていた代理母が、どこかへ旅行に行きたがったことには困った。彼女の旅行がしたいという願いをかなえてあげたかったが、27週目で彼女の子宮口が2cm開いていたので、早産の恐れがあった。医師は何とか生まれないようにして、34週目で帝王切開を行った。一人の娘は、もう一人よりもかなり小さめで生まれた。病

院の新生児集中治療室の中にいる彼女たちを見るのは怖かった。

大変なことも多いが、親になるための旅は全体としては、またとない経験になった。


Q. 卵子ドナーを選ぶ際にこだわりはありましたか？ 代理母についてはどうでしたか？

私は、卵子ドナーに対して身体的に魅力的なことを求めた。一方夫は、もっと現実的で、遺伝上問題のない健康な女性を求めた。私たちは、たくさんの卵子を提供できる女性がよかったので、25歳以下の人を希望した。

ドナー候補の写真から、見た目の印象でニックネームをつけた。例えば、親しみやすい近所の子、ハリウッドスターなど。そして、そのうちから一人を選んだ。

Q. Two dads and three girls というサイトの目的は？ 今までどのような人からコンタクトがありましたか？

私は自己啓発のイベントに行って、自分のレガシーについて考え始めた。それで、自分のこれまでのことを人に伝えたいと思った。アメリカには、本当の自分を隠しているゲイの中国人が多くいる。人はいままで私がたどってきた道は簡単なものだったと思っているかもしれないが、実際はそうではない。だから、私は自分の歴史から、人々が何か学べるものがあればよいと思った。ホームページはそのためのもの。私は、人々が私の本を読んで何かを感じたり、私の苦勞から何



かを学び、勇気を得てほしい。私の本を読んですぐ助けられたというメールも徐々に来るようになっていく。

本と同じ名前の非営利団体も始めた。まだ、どういったかたちで運営していくのがよいか模索中だ。著書のセールスを活動費に充てられるだろう。

Q. 子育ての仕事の両立は難しいですか？ 子供が生まれて、パートナーシップに変化はありましたか？

夫と私にとって家庭と仕事の両立は難しいことではない。私たちはどの場面も楽しんでいる。さらに、私の両親も私を助けるために中国からアメリカに引っ越してきた。もし自分の目標がはっきりしていて、エゴや誰が何をやるべきかという考えを捨て去れば、チームとしてともに働くことができると思う。役割を決める必要はない。流動的でよい。

夫と私との間で文化的なギャップが生じる時があるが、そのことで喧嘩はしないようにしている

Q. 子供達に対する教育方針は？ どのような人に育ててほしいですか？

娘たちには、親切で勇敢でいてほしい。自分のように本の虫になってほしいとは思わない。娘たちは皆、モンテッソーリ教育が受けられる学校に通っているので、彼女たちの教育内容は個人に沿った内容でカスタマイズされている。遊ぶ時間もたくさんある。私は学校の科目テストで良い点数を取ることにこだわっていない。子どものころから優秀さを求め

るべきであるという考えには賛成しない。

彼女たちの持っている才能を見つけ出し、それを育てていけるよういつも心を砕いている。

Q. 子供たちに卵子提供・代理出産のことをどのように教えていますか？ どのように受け止めていますか？

娘たちは4歳と6歳でまだとても幼い。彼女たちは自分たちを産んでくれた代理母のことは知っているが、母親についての理解はまだ構築中だ。私が娘たちと触れている時間が長くて、夫は子どもたちとふざけたり、遊ぶ時間が長いせいか、長女は時々私のことを「お母さん」と呼ぶ。娘たちにお母さんが欲しいか尋ねたことがある。彼女たちの答えは、お父さんが二人いるからお母さんはいらない、だった。

あらゆる映画やテレビでは、父親と母親が描かれている。だから、娘たちは私たち家族がほかとは異なっていると分かっている。私は、埋め合わせるためにたくさん愛情を注いでいる。娘たちには、自分たちが劣っていると感じてほしくない。

Q. 子供は、ママがいないのはなぜ？ などと聞いてきますか？

娘たちはそれほど多くの質問をしてくるわけではない。時々、代理母のお腹について聞いてきたりするぐらい。

Q. 卵子ドナー、代理母はそれぞれどのような女性ですか? どのように付き合っていますか?

卵子ドナーとは付き合いはない。代理母とは、以前はそれなりにかかわりがあったが、家族間でちょっとしたことがあってからは疎遠になった。

Q. 女の子3人ですが、思春期になった頃、不安はありますか? どのように準備していますか?

娘たちには、すでに男女間の性器のちがいについて話をしている。ちょっとだけ居心地が悪かった。いくら繊細であろうと、自分は男性だから母性本能や、女性として育ってきたからこそ得られる知識や経験を娘たちに伝えることはできない。将来的には、親族の誰かの助けが必要になってくるだろう。自分にとってわからないことだらけだ。

Q. 妊娠出産で代理母に生じるかもしれない愛着の問題について、心配がありましたか?

かなりあった。特に最初の妊娠の時は、本当に心配だった。代理母を選ぶ際の条件の一つが、すでに自分の子どもを持っている人というものだった。彼女が子どもをおなかの中で育てていることや、彼女が望めば母乳を与えられることがうらやましかった。二度目の妊娠の際はもっと気楽だった。

Q. 男性が子育てすることに対する偏見はありますか? それによる困難は? 何かエピソードはありますか?

長女の出産を担当した医師からは偏見を感じた。医師は、二人の男性が親になると聞いて、赤ちゃんを連れて帰ることはできないと言った。私たちには母性本能がないからという理由で。これには心底失望した。私はその医師にたいして、オンラインレビューで最低の評価を与えた。それ以外は、リベラルな地域に住んでいることもあって、日常的な偏見は経験していない。

海外へ旅行する際、厄介なことになるだろう。幼い女の子と一緒に国境を越えようとするといつも止められる。出生証明書やその他の書類を見せてようやく入国できる。幸い、夫と私はカリフォルニア在住だから、出生した時から二人の名前入りの出生証明書を持っている。だから、少しはましな方だ。

Q. 学校や地域に gay dads はたくさんいますか? 交流はありますか?

代理出産の最中にほかのゲイカップルと知り合いになったが、その後関係は途切れた。自分は内向的だから、家族と過ごしているほうがいい。

Q. Gay Dad 向けのグループに入っていますか? 役にたちますか?

Men Having Babies のフェイスブックに登録はしていて、過去にコンタクトを取ったことがある。自分はおっぱい投稿された内容を閲覧するだけで、活発に投稿

したりコメントを残したりすることはない。

Nick Yu He [Link](#)

自身がゲイと認識し、代理出産で娘を持つまでを記した回顧録“Two Dads and Three Girls”の著者。中国人の両親のもと中国で生まれ、MBA取得のためにアメリカに移住。マイクロソフト社などで10年働いた後、2回目の代理出産を期に退職。現在は不動産関連の仕事をしなが
ら、夫の Bryan と3人の娘とともにカリフォルニアで暮らしている。

著書



Nick (Yu) He 2019 *Two Dads and Three Girls: Searching for Sexual Identity, Falling in Love, and Building a Family through Surrogacy.* GPS Real Estate Investment.